

北海道合鴨水稻会

水かき通信

新年にあたり

北海道合鴨水稻会 代表世話人 浅野 晃彦

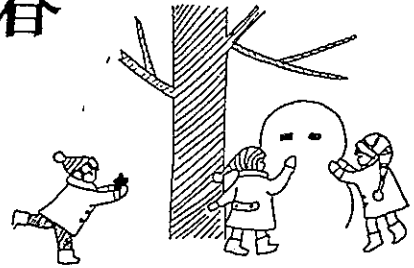
新年あけましておめでとうございます。昨年は、合鴨水稻会発足後、初めての年にあたり、折坂さんの全国富山大会への参加、ヒナの取りまとめ、そして夏の現地視察および、交流会を道北地区で行いました。本来ですと、昨年末に総会を行う予定でしたが、諸々の事情により、今年の2月に行う事になりました事をご了承下さい。

さて、昨年は、新食糧法施行元年という事で、米を巡る話題はつきない年であったと思います。今、米の販売は、少しでも他より差をつけ、有利にという動きになっているわけですが、有機栽培や、無農薬栽培が、単に販売戦略ではなく、何の為になすべきかという事は、長年、特別栽培米に取り組んでこられた会員の皆様には十分ご承知の事と思います。

この先、このような路線で、米の販売は推移していくでしょうが、先駆者としての自信を持ち、変化の多い時代だからこそ、農業に対する確固たる新年を持って共に力を合わせていきたいものと思っています。

最後に、会員の皆様と、ご家族のご健康をお祈りし、年頭の御あいさつとさせていただきます。

迎春



今号の内容

| | | |
|---------------|--------|-------|
| 新年にあたり | 浅野 晃彦 | 1P |
| 圃場見学会報告 | 事務局・酒井 | 2P~5P |
| 合鴨水稻同時作に取り組んで | 会 員 | 5P~6P |
| 私の勧めるこの1冊 | 会 員 | 7P |
| 総会のお知らせ | 事務局 | 8P |
| 編集後記 | 事務局 | 8P |

北海道合鴨水稲会 95年度圃場見学会報告

事務局 酒井 徹

去る7月の下旬、旭川及び中富良野を会場に圃場見学会が開催されました。

合鴨を水田に入れている状態の観察及び水田からあげた後の鴨の飼育の話などをするには、7月中に開催したほうがよいのではないかとということで、この7月27日～28日の2日間に開催することになりました。参加者は全部で13名でした。

圃場見学会のプログラムは右のようになっています。

| | |
|-----------------|--|
| 7月27日 (木) (1日目) | 13:30～14:00 受付 |
| | 14:00～14:30 圃場見学 (浅野宅) |
| | 14:30～15:00 移動 (→宿泊地 旭川 斉藤牧場) |
| | 15:00～17:00 事例報告 (4名予定) 全国合鴨水稲会「合鴨フォーラム富山大会」報告 (折坂氏)、質疑応答 夕食・懇親会 |
| | 17:00～ |
| 7月28日 (金) (2日目) | 8:00～9:00 朝食 |
| | 9:00～10:00 移動 (→中富良野) |
| | 10:00～12:00 圃場見学 (間山宅→ 武田宅) |
| | 12:00～ 解散 |



浅野農園；野良処
てくてく

初日の27日は14:00に浅野さんの家に集合することになっていましたが、時間通りに来たのはわずか数名で、皆さんのおおらかさが現れていたと言って良いでしょう。とりあえず、全員が揃うまでただ待っていても仕方ないので、ある程度揃ったところで浅野さんの圃場を見せてもらいました。

電気牧柵で囲まれた約80aの田んぼに合鴨がおよそ120羽いて、浅野さんが田



んぼの畦で餌をやると、鴨が集まってきました。そろそろ出穂の時期でしたが、圃場見学会のために鴨を入れておいてくれたそうです。浅野さんの田んぼのすぐ

脇に川が流れており、以前川に入ったまま帰ってこなかった鴨もいたそうですが電牧の電線の位置を工夫しながら、逃亡を防いでいるそうです。

そうこうしているうちに皆が集まってきたので宿泊地の斉藤牧場を目指して出発することにしました。

夕食の材料については折坂さんが買って来てくれたので、途中で飲物と朝食用の食料などを買い足して、15:00過ぎに斉藤牧場に到着しました。

斉藤牧場；牛のおっぱい

斉藤牧場はいわゆる「蹄耕法」による牧場経営をしており『牛のおっぱい』という漫画のモデルにもなっているそうです。斉藤さんはこれまで敷地内の土地をいろんな人に貸しており、そこには小学生が建てた小屋や営林署が試作したログハウスなどが立っています。それらのうちしっかりしている四棟が現在宿泊施設として利用でき、周りの景色を見ても、泉があって箱庭のようではな



なか良いところです。今回の夕食もバンガローの前で焼肉をする事にしました。

さて、斉藤さんにバンガローを借りる手続きや、焼肉のための準備に少々時間がかかり、あっと言う間に16:00近くになってしまったので、予定していた事例報告や全国大会の報告は追々やろうという事になり、とにかく乾杯して夕食と懇親会が始まりました。斉藤さんには挨拶のみならず 牧場にまつわるいろんな話をし てもらい、共感した人も多かったと思います。結局息子さんが迎えに来るまで我々に付き合 わせてしまいました。我々も改めて互いに自己紹介をし、ジンギスカン、カルビ等をたべながら実に楽しい懇親会となりました。



予定されていた事例報告会は自己紹介の中に吸収されてしまいましたが、折坂さんからの「合鴨フォーラム富山大会」報告は何とか行われました。内地では合鴨水稲水稲同時作をやっている人達の中にも特に地域間で難しい関係があるようです。その点北海道の合鴨水稲会は総じて仲が良く、私も中において大変面白く、つくづく良かったと思います。

宿泊は予定通り斉藤牧場のバンガローでしたが、寝る場所を決めていたわけではないので、酔った人から順次バンガローに入り適当に寝る事になりました。バンガローは結構立派なのですが、季節がら蚊の多いのには参りました。外で飲み食いしていたので私などは両足で40ヶ所ぐらい刺され、しかも随分強力な蚊だったらしく、その後1カ月位傷が残ってしまいました。

搾りたての牛乳とおにぎり

2日目はさすが農家ですね。早起きして牧場内を散歩する人も多く、皆さん7時頃には外に集まってしまいました。斉藤さんも搾りたての牛乳を差し入れてくれました。ところが朝食の支度をしながら人数を数えてみると1人足りない。誰がどこへ行ってしまったのか。いないのは荒さんであることにすぐ気付いたのですが、朝食が前日に買ったカップラーメンと豆腐しかなかったため「ひょっとして朝飯を持ってきてくれたりして」などと調子の言い事を言って笑っていたところへ、当の荒さんが立派な乗用車で登場！その両手にはなんと山のようなおにぎり。皆、拍手、喝采、大歓声。さすが荒さん。そしてありがとう、荒さんの奥さん。大変おいしくいただきました。

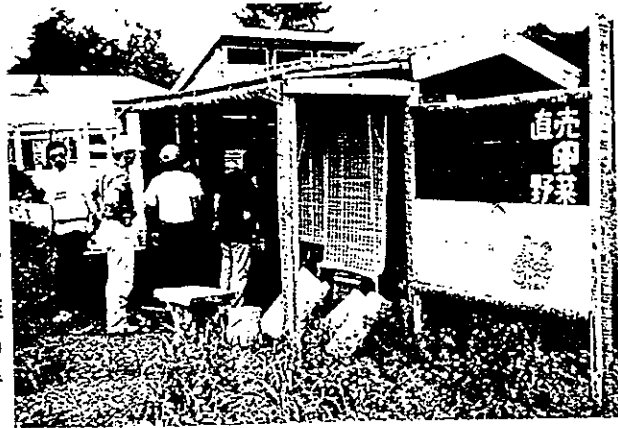
中富良野へ

朝食の後、皆で片付けをして中富良野へ向かうことにしました。中富良野で現地解散する予定でしたが、また旭川方面に戻ってくる人も多いので互いに便乗して少ない車で行ったほうが便利はずなんです。面白いですね。結局自分の車で行くことになりました。やはり「一國一城」の主なんですね。

さて、車で移動すること、一時間。武田さんの家に到着しました。

武田宅；どこか農場

入り口のところには、看板と小さな小屋があり直売所になっています。なかなか洒落た雰囲気です。武田さんのところでは、水田6反に50羽の合鴨を放していました。田植えまでは前年の鴨も入れているそうです。武田さんは電牧を使わず

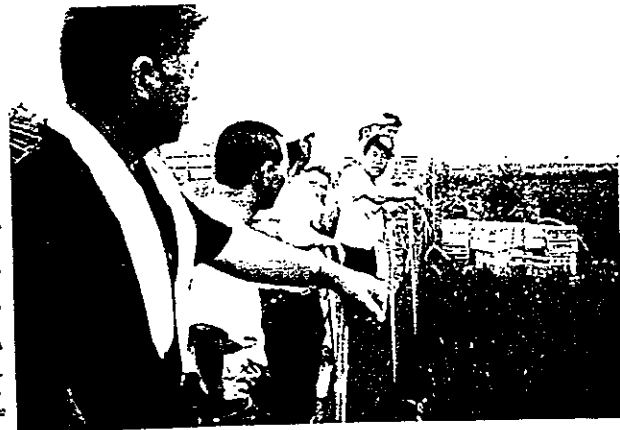


割と目の大きな網で囲んでおり、網に不完全な所があると外に出ていくこともあるようです。我々が訪ねた時も一羽外に出ていて、出穂した隣の持ち主が心配そうに見ていました。武田さんの所には他に採卵鶏が約300羽いて、ひよこも含めて敷地内を元気に走り回っていました。因みに小屋の中には七面長もいましたが私は七面鳥を見たのが始めてで、あんなに大きいとは知りませんでした。

間山農場；280羽の合鴨

続いて車で数分の所にある間山さんの家を訪ねました。

間山さんの水田は約5haあり、その内2.1haを合鴨で栽培していました。間山さんの圃場では、かなり目の細かい網と



電牧を組み合わせ水田を囲って見ました。見学の時は既に鴨を水田から引き上げた後でしたが、今年は280羽入れたそうです。自宅の二階から水田がよく見えるとのことで、朝起きて田んぼを見ると一夜にして「ミステリー・サークル」ができていた、なんてこともあったようです。

感想と反省

一通り見学が終わった後で解散の予定でしたが、せっかく集まったのだからということで皆で昼食を食べる事にしました。太田さんも駆けつけてくれ、昼食を食べながら今回の感想を出し合ったり、また、簡単に今後の打ち合わせをして解散しました。

合鴨水稲同時作に取り組んで

南部地区 大塚 功

私と合鴨水稲同時作の出会い、萬田先生が書かれた雑誌の記事と、第2回合鴨フォーラムでした。私は今年初めて50アールの水田に70羽を放しましたが7月下旬に、原因不明で一夜にして全ての合鴨がいなくなってしまう、苦労が多い中で順調だっただけに落胆も大きかった。水田放飼の時期が他の作業と競合するために放飼準備のために2人で3日間の準備を正直いって面積を増やすとなると非常にきついというのが実感です。

又、私の気持ちの中にコップの中の口

今回見学させていただいた三者ともそれぞれ工夫されていて、やり方が少しずつ異なっていたことがかえって参考になったと思います。懇親会の最中は笑いが絶えることなく、斉藤さんの話も興味深く聞くことができ、また両日とも天気が良く、総じて楽しい圃場見学会となりました。

尚、今回は会員の他にも北大農学部の横松君が参加してくれました。彼は来年度大学院に進学することになったので、これからも一緒にやっていければと思います。

また、今回は会員の皆様にお知らせしたのが7月20日で、見学会の直前になってしまった事をお詫びいたします。

マンでないのだろうかというジレンマも多分に有ったからでしょう。新農政、新食糧法、我々にとって決して明るい未来を見つめる事の出来る方向だとは考えられません。皆さんはどうお考えでしょうか。我々をとりまく環境は厳しいし、今のきびしさをそれぞれの知恵で切りぬけようとする事も大事ですが、私達の意志を次代に残す、伝えて行くという事も大事な事ではないでしょうか。11月13日のNHKのテレビ放送を見た方も多くいると思います。国際的な食糧事情が備蓄20%を割り込んで非常に危険な状態に有るという事でした。西暦2000年

には75億の世界人口が100億になり世界の食糧事情は一層深刻になり、今でも飢餓人口が1400万人、300万人が餓死しており、アメリカ始めドイツ、フランス、イギリスなど先進国では食糧の自給率は90%以上。経済大国我が日本は37%。一昨年の米パニック考えると工業とは全く違う農業を大事にできない日本の農政に大きな憤りを感じます。

合鴨放飼については同業者は冷やかな目でながめ、消費者の方は「又来年も是非がんばってやってほしい」と励まし声を送ってくれています。北海道は1戸当たりの経営面積が広いので北海道の事情に合った放飼体系もみんなで知恵を出し合う事が当面必要ではないでしょうか。こんなにいい農法が大きく広がり、長く続く事を心から祈っています。

アイガモ君と米作り

南部地区 築城 正行

以前から合鴨水稲同時作をやってみたく思っていました。なかなか思い切れませんでした。昨年の設立総会でいろんな人の話を聞き、やっとその気にさせられ、今年アイガモのヒナ50羽導入、初めてアイガモとつき合ってみました。最初は網だけでやろうと思いましたが友人や近所の人に「今年アイガモで米を作るんだ」と言ったものだから、「大きくなったら食わせろ」と近所のオヤジ、「何もそんな事までしなくても・・・」と半ば軽蔑顔の友人、「期待してるヨ」と有機野菜を取り扱う八百屋さん。これでは失敗できないと思ひ網をやめ、電気柵を使うことにしました。5月に入りヒナが到着、初めて見るアイガモのヒナは可愛いものでした。

それから、7月一杯働いてもらわなければ、と思い、エサをやるとき、ヒナのそばを通る時、ヒナを見るのが毎日の楽しみでもありました。1週間後に水馴ししと、水槽に水を入れ、ヒナ全部を水槽の中へ。「泳いだ、泳いだ」と妻と喜んでいたら、1羽、2羽と沈んでしまい慌てて取り出しお湯へ入れたが3羽死ぬ。2度3度と水馴らしの度にヒナを殺してしまい、何とか水慣れしてくれたのが42羽でした。そして田圃でも死に、これで大丈夫と思った時は39羽になってしまいました。

水田4反に電牧6段、テグスを縦7m間隔、横5mの2段上下60cm、これなら安全と思っていましたが、トンビに3羽やられ、8月初旬に田圃から上げた時は全部で36羽でした。

初めてにしては、こんなもんだらうと思っています。反省として緑餌、水馴らし、田圃での餌の量など、マニュアル通りやっていたら、アイガモを滅ぼさず、田圃も稗だらけにする事もなかったのではと後悔しています。アイガモに振り回されながらも、これで有機栽培米を作る自信が出来ました。アイガモ君には手間が掛かりましたが、毎日が心穏やか米作りを経験させてもらいました。今、丸々と太ったアイガモ君は食べ頃です。ペットのアイガモ君、食べたいが殺せず困っています。どうしたらいいでしょう・・・



私の勧めるこの一冊

鬼平犯科帳 1~24

池波 正太郎 (青春文庫)

浅野 晃彦

子供の頃、父親が時代劇が好きな姿を見て、自分は決して時代劇には興味を持たないだろうと思っていたが、父親と同じ年頃にこの小説に巡り会ったのも年相応になってきたということでしょうか。

池波正太郎の代表作で何を今更と思われるでしょうが、うわべの勧善懲悪でなく、密度濃く描いた悪の世界が24巻もある全作品についてもう一冊と手が伸びてしまうのです。番外編も何冊か出ているので農家の長い冬にはもってこいだと思います。

藤沢 周平の時代小説

大塚 功

読みたい本を買求めるという事になると結構な出費になります。どうしても手元に置いてという物以外は、図書館の貸出を大いに利用しています。私の近くには町営の大きな図書館があり、専門書も多く大変助かっています。以前、過労で健康を害した時期があり今はあまり無理をせず自分の自由になる時間もとるようにしています。私達農民をとりまく状況は大変きびしいものがありますし、それだけストレスも多くなって来ているのではないのでしょうか。私は不器用なものですから他に何か趣味といってもなかなかです。それで肩のこらない読書でスト

レス解消としています。

今は最後の本格時代小説家と言われていた藤沢周平の作品を大体読み終えそうです。彼の作品の多くは江戸時代、幕府を中心に大名の財政が非常に悪化する中で下級武士や江戸庶民の暮らしぶり、今の日本社会の有り様にも一脈通じる事が有るように思われ、楽しんで読んでいます。さて、この次はなにを読もうか、お勧めの物がありましたら、お知らせ下さい。

竜馬がゆく 1~8

司馬遼太郎 (文春文庫)

折坂 義一

「私の勧めるこの一冊」ということですが、最後までまともに本を読んだ事のない私が、20代の時、全巻を読みきったという輝かしい記録を作った作品が、「竜馬がゆく」だったので。

ミュージシャンだったころ将来に対しての不安、人生とはいったい何なのか、自問しながら、ブルーな日々を送っていました。その時、この一冊に出会い、とてもインパクトがあり、勇気づけられたものでした。

環境・食糧問題が叫ばれている現在、つい時代に流されがちな私たちですが、幕末の時代、坂本竜馬をはじめ、維新に立ち上がっていた若者たちのように、いつも希望を捨てない心だけは持ち続けたいものです。ぜひこの一冊を読んでください。

第2会総会並びに研修会のお知らせ

昨年末に総会を開催する予定でしたが、諸般の事情で遅れてしまいました事をお詫び申し上げます。世話人会で相談した結果、次の通り開催することとなりましたので、会員の皆様はもちろん関心の有る方もお誘い合わせてご出席下さるようお願い致します。

なお、開催場の月形町営「はな工房」は国道275号沿いにある温泉付きの宿泊研修施設です。工房周辺には様々な施設もあり、きっとご満足いただけるかと思えます。夕食にはレストランのご協力でお稲会員産の合鴨料理も予定しています。ご夫婦同伴も歓迎です。

会場については「しおり」を同封致しましたのでご覧下さい。

日時 2月12日(振替休日、月)
pm12:30～受付(2F研修室前)
pm 1:00～研修会(右記)、総会
pm18:00～懇親会
2月13日(火)
am 9:00～懇談会(予定)
昼食後解散

2月12日研修会予定

◎ 基調講演 中国農業事情
講師;専修大学北海道短大工藤教授
講師は農業機械の専門家ですが中国をたびたび訪れ農業指導等で活躍されています。今回は中国の生の農業事情をスライドを交えお話しして頂く予定です。特裁米の良き理解者でもあります。

◎ 事例発表 各会員の体験発表

開催地 月形 はな工房
樺戸郡月形町皆菜公園内
TEL 0126-37-2188

会費 10,000円(宿泊,夕朝食,他)
7,000円(日帰り,夕食,他)

申込〆切 1月31日(消印有効デス)
同封の葉書を必ず投函して下さい。
問合先:今橋道夫(Tel 01266-7-2525)

編集後記

今回も発行がかなり遅れてしまった事をお詫び申し上げます。実は今回はピンチヒッターなのです。世話人会を欠席したばかりに?事務局の酒井氏の代役となった始末。原稿書きより楽だと思いきや酒井氏の圃場見学会報告のボリュームの多さに悪戦苦闘の毎日が続く。しかし色々なところを見てる…。皆さん、本を読んでいる…。表現がうまい!!。
酒井さん、頑張れ。ワープロ疲れた!
総会でお会いしましょう。 今橋記

北海道合鴨水稲会 水かき通信第2号
1996年1月20日発行
発行:北海道合鴨水稲会
発行所:北海道合鴨水稲会事務局
〒060 札幌市北区北9条西9丁目
北海道大学農学部
農業経済学科農業市場学講座
酒井 徹(代行 今橋 道夫)
TEL:011-716-2111(内線3880)
FAX:011-736-8633